

2025
Spring
Vol.1

ニュースレターが
名前を変えて
帰ってきました!

AFS東京中央支部 ニュースレター

【ビヨンド・ボーダーズ】国境の先に広がる世界

Beyond Borders



● ホストファミリーに1年間の感謝を

2025/1/19 2024年度春組生送別会

2024年度春組生のアンナ(ドイツ)とアリシア(メキシコ)の送別会を開きました。初めての日本での生活で、楽しい時も不安な時も共にいて支えてくれたホストファミリーに、留学生の2人から1年の思い出を写真で振り返り、日本語で「ありがとう」の気持ちをスピーチしました。そんな成長した彼女たちの姿に、ホストファミリーはもちろんのこと周りで一緒に支えてきたLP(*)の目にも光るものが…。最後は花束とハグで笑顔が溢れるあたたかな会となりました。9月に来日した秋組生のヌナ(ガーナ)、ヒデキ(ブラジル)と彼らのホストファミリーも、1年間を終えた春組生の言葉に半年後の自分たちを重ね合わせ、今後の留学生活への思いを新たにしていました。(文:伊澤・若原)

(*) LP=リエゾン・パーソンの略、留学生担当ボランティア



ホストブラザーとも
仲良しでした!



毎日弁当を
作ってくれてありがとう

● 帰国した春組生からメッセージが届きました!



ドイツ

アンナ

Anna Dylong



メキシコ

アリシア

Alicia Urvano



こんにちは私の名前は アンナ です。
ドイツから来ました。
私は東京に住んでいます。東京が大好きです。
日本の人はとってもいい人です。
学校もバスケットボールが大好きです。
たのしい一年でした。

みなさん、お元気ですか。私はアリシアで、十八歳で、メキシコ人です。
日本は楽しくて おもしろかったです。だから、また日本に行きたいです。
今、私は 勉強をがんばっています。(笑) いつかメキシコにも来てくださ
さいねー!♡

「家族をする」から「家族になる」へ

アンナ(ドイツ)のホストファミリー 杉田さん

Q.ホストファミリーをやろうと思ったきっかけは？

(Hf)私がAFSのリターニーでホストファミリーにはとても感謝していたことと、高校生の娘がAFSでアメリカ派遣が決まったので、娘の留学中に受け入れ側の立場も分かつと良いと思ったからです。



Q.困ったことをどう解決しましたか？

(Hf)アンナちゃんは最初日本語がまったく話せませんでした。だから本人にどうしたいか聞いて、日本語で話しかけた後に同じ内容を英語で繰り返す期間もありました。かなり疲れましたが(笑)。

(Hm)必ず月に一度家族会議をして、困ったことはあるか、じゃあ来月はこうしよう!と話し合っていました。お弁当の量から、来月はどこに行きたいかなど1カ月のスパンで何でも。普段は日常に追われて大したことは話せませんが、その家族会議でお互いじっくり確認し合えたのはとても良かったと思います。

Q.ホストファミリーの醍醐味とは？

(Hf)ホストファミリーは本当の家族ではないので、「家族をする」ということから始まりました。お願いしたり、いさめたりがあまりできずどうしても手加減してしまう。でも、そういうのって子どもは敏感に感じるんですね。小6の息子に指摘されて気づきました。それから「娘にするようなことをする」を心がけて時間をかけて家族になっていったかな。10カ月だとちょっと足りなかったけど。

Q.10年経っても忘れそうにない出来事は？

(Hf)妻抜きで出かけたスキー旅行で、手違いでシングルベッド2台しか用意されておらず、誰が床にシーツを敷いて寝るかを『大富豪』で決めることに。息子が出したカードが私に有利なカードで私が最初に上がったのですが、アンナちゃんが息子に「何でそのカード出したの」と言ったのに対し息子が怒り出し、陰湿なムードになってしまったんです。そこで私が、息子には「ドイツではおかしいと思ったことを指摘するのは当たり前で君を責めているのではない」こと、アンナちゃんには「日本人は対立をしない文化だから、そういう言い方をすると人として非難されていると感じちゃうんだよ」と話したんです。そうしたら2人とも「そんなことまったく考えてなかった!」と泣きながら抱き合って謝り合ったんです。それを見て、「なんて美しいんだ!」と感動しました。まさに異文化交流の瞬間でした。

Q.ホストファミリーをやって、今思うこと

(Hm)留学生に限らずどんな人に対してもオープンな気持ちになりました。受け入れ側の姿勢ができたのかな。息子の友だち



もよく遊びに来るようになったり。(Hf)息子が葛藤やぶつかり合いがありながらも積極的に彼女と関わり、本当の姉弟のような関係が生まれたおかげで私たちも自然と家族になれたと感じています。

10カ月間のホストファミリーを終えたばかりの2家族にお話をうかがいました。 ※(Hf)はホストファザー、(Hm)はホストマザー

肌で触れ合う異文化交流

アリシア(メキシコ)のホストファミリー 樋口さん

Q.ホストファミリーをやろうと思ったきっかけは？

(Hm)夫に相談した時に、息子のためになるし楽しそうという話になりました。私は成長意欲が高く、面倒くさいぐらい向学心がある人間で、今まで短期留学、大学院、英語の勉強など自分に投資をしてきました。でも、仕事がちよつと落ち着いた時に、自分ではなく次世代の子を応援するようなことに投資をしてもいいのかなと思いAFSの扉を叩きました。

Q.留学生のファーストインプレッションは？

(Hm)メキシコの留学生と聞いて、色眼鏡でノリの良い子を想像していたら、とてもシャイな子が来たなあ、というのが第一印象でした。最初は日本語は挨拶ぐらいしか喋れなかったのが、私が間に入って英語でコミュニケーションを取っていました。

Q.困ったことをどう解決しましたか？

(Hm)アリシアが初めの頃に覚えた「大丈夫」という言葉がありました。そう言われて安心していたら、当日になって何も分かっていなかったということも。そのような経験をするうちに、「本当に大丈夫?」と聞くようになりました。体育祭の前日の夜10時にゼッケンを持って、「ママ、これちょっとできないんだけど…」と言って来たこともありました。針に糸を通して糸がめちゃくちゃ長い。それをどうやって縫うの?という長さで(笑)。彼女、分からない日本語のお知らせを読んで、やったことのない裁縫を頑張ったんですよ。これはアリシアが結婚する時に話せますね。



Q.ホストファミリーの醍醐味とは？

(Hm)異文化交流を24時間できることです。言語を飛び越えて、価値観や育ってきた環境が全然違うことを体感できること。日本の中で異文化に肌で触れるのはやっぱり違う。例えば、息子は学校で周りの子によくハグをして、「やめて」という子もいたので一時期悩んでいました。当時、「お友だちはあなたを嫌いなのではなく、ハグという行為自体に戸惑っているんだよ」と説明していました。でも、アリシアはハグを幸せと感じる子でした。彼女は、他の日本人がしない息子のハグがすごく嬉しく、助けられたといつも話していました。息子はまだこの経験を言語化するのは難しいと思いますが、引き出しが増えているといいなと思います。

Q.ホストファミリーをやって、今思うこと

(Hf)もちろん、ちょっと特別なことを日本にいる間に体験させてあげられたらいいなとは思いましたが、スタート時からすごく丁寧には考えていませんでした。なるべく自然にやっていたからこそアリシアが帰った今は寂しいと感じています。

(Hm)「お疲れさま、全てやり切った!」という満足感ですね。



2024年度秋組留学生紹介



ヒデキ

Rafael Hideki Yuri Kubokawa

出身国: ブラジル

好きなこと:
バスケットボール、ゴルフ、スキー、
スポーツはなんでも!



ヌナ (ガーナ奨学金受給生)

Nuna Monu Adjoko Kokukokor

出身国: ガーナ

好きなこと:
料理、編み物、絵を描くこと



● 秋の歴史散歩とピクニック♪

2024/11/10 皇居周辺をお散歩

秋も深まり少々風が冷たくなってきた週末の午後、留学生、ホストファミリー、ボランティアが東京駅に集合しました。ボランティア長谷川さんのガイドのもと、おしゃべりしながら皇居周辺を歩き回ると体もあたたまり、あっという間に時間が過ぎました。最後は芝生の上で、持ち寄ったお菓子を広げてコーヒータム。小学生から大人まで、様々な立場でAFSに関わる皆さんと知り合い、おしゃべりを堪能するひと時となりました。次回は3月末にお花見が企画されています。ぜひ皆さんで参加ください。(文:新渡戸)



● 各国からのリターナーがプレゼン

2024/12/15 70期生帰国報告会 & 72期生懇親会

2023年夏から1年間留学していた70期帰国生渡邊さん(イタリア)と深瀬さん(アメリカ)を迎え、帰国報告会を開催しました。当日は、来年留学する72期派遣生とその保護者、支部の留学生、支部員が集いました。報告会では、留学中の学校やホストファミリー宅での体験や文化交流の様子などが発表され、参加者は熱心に耳を傾けていました。留学生には「日本と母国の違うところ」についてスピーチをしてもらいました。報告会後には、参加者との質疑応答や交流会も行われ、有意義な会となりました。(文:相川)

冬休みの手作りイベント

2024/12/22 春・秋組クリスマスケーキ作り

春・秋組各2名の留学生と、秋組のホストシスターでもあったちふゆさん(森支部長の娘さん)とでクリスマスケーキを作りました。市販のスポンジケーキに、それぞれ好みのクリームやフルーツ、チョコペンとクッキーで作った飾りをトッピングしたオリジナルケーキが完成しました。終了後のティータイムではコロナ禍の自国のスクールライフについておしゃべりで盛り上がりしました。その中で春組のアリシア(中南米)が「ねえ、私たちすごくない？ だってアンナ(欧州)、ヌナ(アフリカ)、ヒデキ(南米)、ちふゆ(アジア)は世界の五大陸からそれぞれが集まって東京で同じ時間を過ごしているのよ」と言いました。まさにAFSで留学する醍醐味を味わった瞬間でした。作ったケーキはそれぞれのホストファミリー宅に持ち帰り美味しくいただいたそうです。(文:長谷川)



学生ボランティア主催のゲーム大会

2025/2/9 72期生懇親会

新宿区の落合第一地域センターで東京中央支部の72期派遣生向けの懇親会を行いました！参加してくれた派遣生は全部で10名。最初は班に分かれて学生ボランティアが持参したカードゲームなどで遊びました。テーマに留学を絡めたゲームなどもあり、楽しい時間を過ごすことができました。会の最後には全員で参加する人狼ゲームなども行い、大盛り上がりでした！留学前や留学中、同期の存在はきっとプラスになるはずですよ。今回の会でそのようなつながりができたようで、運営した学生ボランティアも嬉しい限りでした！(文:本多)

支部員ピックアップ 留学生・派遣生を支えるボランティア

星野 恭子さん (東京中央支部員／71期イタリア派遣生保護者)

「アートで日本と外国を繋ぐキュレーターになる」という夢を抱いた娘が、北イタリア山間の街ベッルーノに派遣生としてお世話になり、半年以上が経過しました。愛情深いホストファミリーのもとで、様々な歴史的建造物に触れさせてもらいながら「アートに関わりたい」とアピールし続けた結果、近所の美術館でボランティアスタッフとして働く機会にも恵まれたようです。スポンジのように吸収する時期に、このような貴重な機会を与えてくださっているAFSには感謝しかありません。次は一保護者として、数ある選択肢の中から日本を選んでくれた留学生たちに「この国で良かった」と心から思ってもらえるよう、微力ではありますができることから恩返しできたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



派遣前の娘さんと



東京中央支部の留学生たちと

支部活動報告 2024年9月～2025年3月

2024年9月～

- 9月21日(土) 24年秋組オンワード
- 10月下旬 24年秋組ローカルオリエンテーション(個別実施)
- 11月10日(日) 皇居周辺をお散歩しよう！
- 12月15日(日) 帰国報告会
- 12月22日(日) クリスマスケーキを作ろう！

2025年

- 1月6日(月) 24年春組帰国前オリエンテーション(オンライン)
- 1月19日(日) 24年春組送別会
- 2月1日(土) 24年春組お見送り@東京駅
- 2月9日(日) 72期生懇親会
- 3月30日(日) お花見(予定)
- 3月31日(月) 24年秋組中間オリエンテーション(予定)

24年秋組オンワード



24年春組ローカルオリエンテーション



派遣生たちの今

コロナで急に打ち切られた留学から早5年。自分が留学から帰ってきてそんなに経つのかと思うと、恐ろしくなります。AFSでの留学は、私の人生のきっかけであり、ぐんと成長する経験となりました。学校にけん玉を持って行ってぶん回してたら先生に怒られたり、ホストファミリーと喧嘩をしてWi-Fiを止められたり、自分をうまく表現できず引きこもってしまったり、急にコロナが広がり、連絡が来た1週間後には飛行機に乗っていたり。心の中はジェットコースターのように、消化しきれないまま日々が過ぎていきました。現在は普通の大学生活を送っていますが、あの留学の日々はいつも心の中にあります。留学経験者の未来には無限の選択肢が広がっているのだとつくづく感じる今日この頃です。

写真上：留学当時の写真 写真下：大学生になってからはAFSの学生ボランティアをしています（右から3番目が川村さん）



生涯忘れられない異文化交流を経験した高校生たち。留学中の派遣生とリターナーは今、何を感じているのでしょうか。

AFS留学がくれたきっかけ

67期アメリカ派遣 川村 佳与さん



ワクワクの日々

71期ポーランド派遣中 高柳 風花さん

ポーランドに来て、毎日が新鮮でワクワクの日々です。この国は空が広く、自然が豊かで、私の家の周りには森に囲まれています。秋にはきのこ狩りや散歩を楽しんでいます。また、日本で10年近く続けてきた空手もこちらで続けています。流派が違うため最初は戸惑いでしたが、真似しながら慣れてきました。合宿や発表の場も増え、改めてスポーツは言葉を超えてつながれると実感しました。学校の授業はポーランド語で、最初はまったく理解できませんでしたが、最近は聞き取れる単語が増えてきました。友だちも優しく、分からないところを教えてください。放課後遊んだり、笑い合ったりできる友だちには感謝ばかりです。いつの間にかポーランドという国が大好きになっていて、自分の第二の居場所となっている気がしています。たくさんいろんな経験をして何倍も強くなって日本に帰りたいと思います。

人種のサラダボウルに飛び込んだ1年

33期カナダ派遣 伊澤 淳子さん

1986-87年でカナダのアルバータ州エドモントンに1年間留学しました。当時のカナダは人種のサラダボウルと言われ、ホストスクールには香港返還を見据えた香港からの移民やベトナム難民、インドやウクライナのルーツを持つ生徒が多く通っており、多様な人種や文化の違いを肌で感じた1年でした。インターネットが普及する前の留学は、紙の辞書で調べ、写真は紙に現像してスクラップブック作り、エアメールで家族と連絡を取るような時代でした。手紙を書いても返事がすぐには来ないので、困ったことがあればホストファミリーやLP、先生たちと解決するしかありません。自分で解決しなければと背伸びをしがちな時期にやりたいことを周りにいる人に助けを求めて実現することの大切さを学びました。

写真左：留学当時の写真 写真右：コロナ後にホストシスターが日本へ来た際に35年ぶりに再会を果たしました。新宿思い出横丁にて





AFS東京中央支部を応援してください！



東京中央支部は大変活気のある支部です。AFSの理念に賛同して集まった支部員は、それぞれボランティアで時間と労力とあたたかい気持ちを支部活動に注いでいます。

AFSは異文化交流を通して、アクティブな地球市民を育てる団体です。留学生が日本の文化を学べるように、ホストファミリーが孤独にならないように、派遣生が強い決意を持って飛び立てるように、支部活動はとても重要な役割を果たしています。

ボランティアの熱意をかたちにするのに、支部費の使い道のひとつとして、支部行事があります。昨年、赤字覚悟でいくつか

大きな支部行事を開催しました。どれも、心からやってよかったと思える「交流の場」となりました。

そこで、皆さまにお願いします。東京中央支部への応援の気持ちを「ご寄付」という形でいただけないでしょうか。大きなご寄付はもちろんですが、「心を寄せています」という少額のご寄付もとてもありがたいものです。いただいたご寄付は、主に支部行事や留学生の学校行事参加費の補助などに使わせていただきます。

次世代を担う若者を、私たちと共にサポートしていただけたら幸いです。

クレジットカードでのご寄付

<https://jpn.afsglobal.org/AFSGlobal/jpn-donation/donate>



上記リンクをPDF上でクリック、または二次元コードよりアクセスしてください。単発の寄付/月々の寄付(一定額の継続寄付)のいずれかをお選びいただけます。いずれも一口1,000円からご登録いただけます。

①「AFS活動支援寄付」を選ぶ。

寄付先

AFS活動支援寄付

奨学金寄付

支部会費・支部寄付

東京中央 TOKYO-CHUO

②「支部会費・支部寄付」を選ぶ。

③「東京中央TOKYO-CHUO」を選ぶ。

④連絡欄に「東京中央支部への寄付」とご記入ください。

お振り込みでのご寄付

(東京中央支部への銀行振込)

ゆうちょ銀行 〇一八店 5804892
公益財団法人 AFS日本協会 東京中央支部

ゆうちょ銀行間の振替の場合
(10100-58048921)をご指定ください。

※寄付金控除手続きに必要な領収書発行をご希望の場合は、下記メールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

ご寄付に関するお問い合わせ

keiko.mori@afs.or.jp



世界中の高校生を受け入れる
ホストファミリーや、

東京中央支部の
ボランティアになりませんか？

その他、お問い合わせはこちらへ

▶ keiko.mori@afs.or.jp
(AFS東京中央支部 お問い合わせ担当)



発信中！

Facebook



まもなく始動

Instagram

支部員のつぶやき

支部長の森です。支部長になって1年が経ちました。ボランティアでここまでやるのか！という驚きと同時に、ボランティアでこんなことまでできるんだ！という喜びが入り混じった日々を送っています。

今回、2月に支部内に広報チームを立ち上げて、編集長気取りでモノづくりの楽しさを味わいました。日頃みなさんがそれぞれに感じている熱い思いが一気に集まってきて、AFSの生み出すエネルギーのすごさを改めて感じつつ、次はどんな記事をお届けできるかな、と今から楽しみです♪

